技術者教育に対する考え

An Opinion – Education for Technical Expert

満 川 一 彦^{※1}

Kazuhiko MITSUKAWA

多種・多様な人財が求められる現在、科学技術立国としての地位を確保するために、高度に特化した専門技術者と幅広い見識を持つ大局的な視点をもつ技術者が求められるようになっていく。これら技術者のうち高度に特化した専門技術者は、早い時期、すなわち大学・大学院などで在学中から長期的視野を持って育成する必要がある。しかしながら、次世代の技術者の候補となる人財は、ゆとり教育に代表される年代が中核となりつつあり、本来、大学・大学院で修得すべき部分を、社会人となった後に、ある程度はベテランの専門技術者に頼って補わざるを得ないのではないかと考えられる。

国の指導の下、産学連携が旗揚げされているものの、先端技術など一部の領域を除き、「学」と「産」の技術者育成の隔たりは、まだまだ大きいと私は考えている。すなわち、長期にわたって実務で力を発揮できる技術者の育成は、まだまだ十分ではないという認識である。私は電気・電子系の学部出身で、電気関連の専門技術の修得が学生時代の主目的であった。時代が違うとはいえ、当時の技術修得は、今から振り返ると勉強の域を出るものではなかったと考えている。ここ数年、私は、教育トレーナー業務の一つとして、新入社員に技術教育を担当している。毎年指導する新入社員をみていると、時代は変わっても学生時代に受ける教育は大きく変化していないと感じている。技術伝承も含め、専門技術者の後継者育成が急務の課題であり、「産」の立場にいる私はこのギャップの解消が急務と考えている。

技術者育成のためには、現場が要求する即効性のある教育と、数十年にわたる技術者としての研鑽期間の体力を蓄えるための基礎学習を行わせる教育がある。いずれにしても、大学と企業の両方の技術者育成教育

を理解し、「社会人の目」を持った教育士によって、組織的に、もしくは組織の壁にとらわれることなく、一貫した人財育成を機能させることが重要であると私は考えている。教育は、伝授対象となる技量・技術を高度に持つ専門技術者が担当することが必須であり、何よりも「教育する心」、「人を育てる心」をもった人物が教育を担うことが肝要である。昨今の我が国の経済状況を鑑みると、大企業といえども教育に投下できる原資には限度があり、教育に対する投資の優先度が下がりつつあることは否めない。私は、選択と集中の考え方の下、費用対効果を鑑みた教育を実施することが重要であると考えている。

技術を育成対象者に定着させるために、私は、教育者の質そのものと、教育者自身のモチベーションを常に向上させなければならないと考えている。具体的には、質とモチベーションを向上させる仕組みが必要であり、仕組みを実現するためにはつぎのような課題があると考えられる。

- 教育組織のマネジメント力の向上
- 費用対効果を鑑みた受講者ニーズにマッチする教育カリキュラムの編成
- 教育カリキュラムごとの評価と継続的な改善
- 教育投資効果の定量的な把握
- 教育者育成カリキュラムの確立

課題を克服するためには、組織の壁を越えた教育者同士の交流と相互支援が必要と考えられる。教育者の相互支援を適切に推進するためには、教育者を評価・認定できる中立的な指標の設定なども重要な達成目標となる。私は、日々の研鑽に加え、様々な分野の教育者の方々と交流し、熱意をもって我が国の人財育成に取り組んでいく所存である。

2012年8月1日受付

※1 上級教育士（工学・技術）

（株）日立ソリューションズ 人財教育部